

# メーターステー & ハーネスキット（スーパーマルチ TFT メーター用）取扱説明書

製品番号 05-06-0030

適応車種	モンキー 125 (JB02-1000001 ~)
	モンキー 125 (タイモデル) (MLHJB02)

この度は、弊社製品をお買い上げ頂きまして有り難うございます。  
使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願い致します。取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。  
万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

◎イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合があります。予めご了承下さい。

## ☆ご使用前に必ずお読み下さい☆

- ◎取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、弊社は賠償の責を一切負いかねます。
- ◎当製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。
- ◎当製品を加工等された場合は、保証の対象にはなりません。
- ◎他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。
- ◎当製品は、上記適応車種の車両専用用品です。他の車両には取り付け出来ませんのでご注意ください。
- ◎当製品をお手入れする際には、ガソリンやシンナー等を使用しないで下さい。ラバーや樹脂部品の劣化の恐れがあります。
- ◎不明な点がございましたらお買い求めの販売店にお問い合わせ下さい。
- ◎当製品はスーパーマルチ TFT メーターを対象車両に装着する為の専用ステーキットになります。  
ステーキットに付属されるサブハーネスや小部品も対象車両専用用品になります。
- ◎当製品はスーパーマルチ TFT メーター以外のメーターには取り付け出来ません。ご注意ください。
- ◎製品プログラムは予告無く変更・改良される場合があります。
- 同一の製品番号であっても製造時期により、動作や画面が多少異なる可能性があります。予めご了承下さい。
- ◎アプリ等の GPS と多少、速度差が出る場合があります。
- ◎車両により、スプロケット交換時、メーターの速度表示設定を変更しても、ABS 等のエラーコードを消す事は出来ません。

## ～特徴～

キットにある専用ステー、専用サブハーネスを使用する事で、スーパーマルチ TFT メーターをモンキー 125 に装着する事が出来ます。  
メーター固定部にはメーターへの振動を和らげるラバースタンプを採用。  
純正メーターから当製品に変更する事で、速度、オド / トリップメーターに加え、回転数、ギアポジション、温度計、バッテリー電圧表示やタイヤ外径補正、パワーテスト機能等、非常に多くの機能を搭載する事が出来ます。外部スイッチにより、表示の切り替えや機能の設定が行えます。  
メーターにはスティック温度センサーが付属している為、SP 武川製マグネット付きドレンボルトを装着する事で、ドレンボルト部での温度測定が可能になります。

## ⚠ 注意 スーパーマルチ TFT メーター装着に関しての注意事項

H. I. D. や他社製 LED ヘッドライト、フォグランプ類との同時装着は出来ません。パラスト / インバーター（電圧変換装置）からデジタル回路に悪影響を与える高電圧ノイズが出る物があり、製品故障や動作不良の原因になります。

## ⚠ 注意 ギアポジションの設定に関する注意事項

ギアポジションの設定にはスピード信号とエンジン回転信号の両方がスーパーマルチ TFT メーターに入力される必要があります。  
その為、“シャーシダイナモやフリーローラー”又は“実走行”によるギア表示の学習が必要になります。  
弊社では、安全性の面から“シャーシダイナモやフリーローラー”によるギア表示の学習を推奨します。  
“実走行”で行う場合、市街地では信号機や交通量が多く危険な為、ギア表示の学習は行わないで下さい。  
“実走行”で行う場合は見通しの良い場所を選択し、周囲の状況を確認した上で、注意して行って下さい。

## ⚠ 注意 この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害が想定される内容を示しています。

- 作業等を行う際は、必ず冷間時（エンジン及びマフラーが冷えている時）に行ってください。（火傷の原因となります。）
- 作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。（部品の破損、ケガの原因となります。）
- 規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行ってください。（ボルト及びナットの破損、脱落の原因となります。）
- 製品及びフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行ってください。（ケガの原因となります。）
- 走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みがないかを確認し緩みがあれば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。（部品の脱落の原因となります。）

## ⚠ 警告 この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- 走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。（事故につながる恐れがあります。）
- 作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行ってください。（作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。）
- 点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。（不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。）
- 点検、整備等を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行ってください。（事故につながる恐れがあります。）
- 製品梱包のビニール袋は、幼児の手の届かない所に保管するか、廃棄処分して下さい。（幼児がかぶったりすると、窒息の恐れがあります。）
- 走行中はスイッチ操作を行わないで下さい。（事故につながる恐れがあります。）

- ◎性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で製品及び価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。
- ◎クレームについては、材料及び加工に欠陥があると認められた製品に対してのみ、お買い上げ後 1ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。  
但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。  
なお、レース等でご使用の場合はいかなる場合もクレームは一切お受け致しません。予めご了承下さい。
- ◎この取扱説明書は、当製品を破棄されるまで保管下さいますようお願い致します。

株式会社 スペシャルパーツ 武川

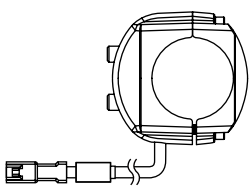
〒584-0069 大阪府富田林市錦織東 3-5-16  
TEL:0721-25-1357 FAX:0721-24-5059 URL <http://www.takegawa.co.jp>

キット内容

①メーター本体



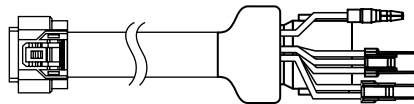
②メーター外部スイッチ



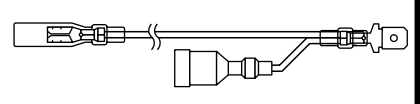
③ラバーストリップ



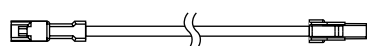
④サブハーネス



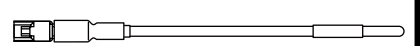
⑤ RPM コード B (550mm)



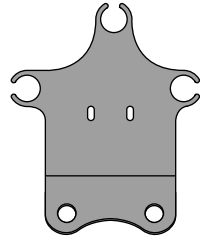
⑥温度センサー連結コード (900mm)



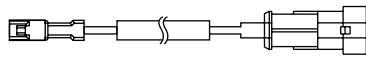
⑦スティック温度センサー (~250°C)



⑨メーターステー



⑧ O<sub>2</sub> センサー連結コード (1200mm)



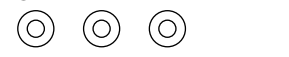
⑩クッションラバー



⑪タッピングスクリュー (M4x12)



⑫大径ワッシャ M4 用 (4x14x1)



⑬結束バンド 300mm



■スーパーマルチ TFT メーター構成部品

番号	部品名	数量	リペア品番	入数
1	メーター本体	1	—	—
2	メーター外部スイッチ	1	00-05-0380	1
3	ラバーストリップ	1		1

■ステーキット構成部品 (05-06-0030)

番号	部品名	数量	リペア品番	入数
4	サブハーネス	1	00-05-0216	1
5	RPM コード B (550mm) IG 接続用	1	090-00-0063	1
6	温度センサー連結コード (900mm)	1	07-04-0556	1
7	スティック温度センサー (250°C)	1	07-04-0555	1
8	O <sub>2</sub> センサー連結コード (1200mm)	1	00-05-0201 (非防水 / 2.0m)	1
9	メーターステー	1	—	—
10	クッションラバー	3	—	—
11	タッピングスクリュー (M4x12)	3	—	—
12	大径ワッシャ M4 用 (4x14x1)	3	—	—
13	結束バンド 300mm	2	—	—

※リペアパーツは必ずリペア品番にてご注文下さい。  
 品番発注でない場合、受注出来ない場合があります。予めご了承下さい。  
 尚、単品出荷出来ない部品もありますので、その場合はセット品番にて  
 ご注文下さいますようお願い致します。  
 ※⑩クッションラバーは⑨メーターステーに取り付けてあります。  
 ※⑧ O<sub>2</sub> センサー連結コードのリペア品は、キット付属の物と異なり、  
 非防水の仕様になります。ご了承下さい。

メーター本体の取り付け 下の組み立て図を参照の上、車体へ固定して下さい。

**警告** 取り付けを誤ると、ボルト及びナットの破損、脱落等で事故につながる恐れがあります。

■メーター本体とメーターステーの固定方法

図 1

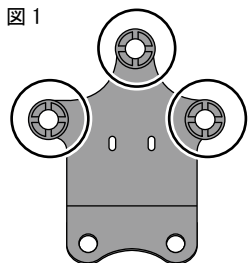
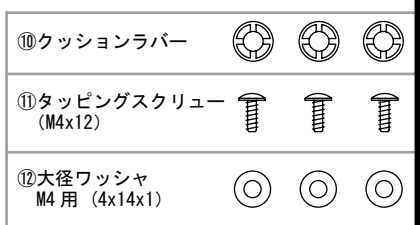
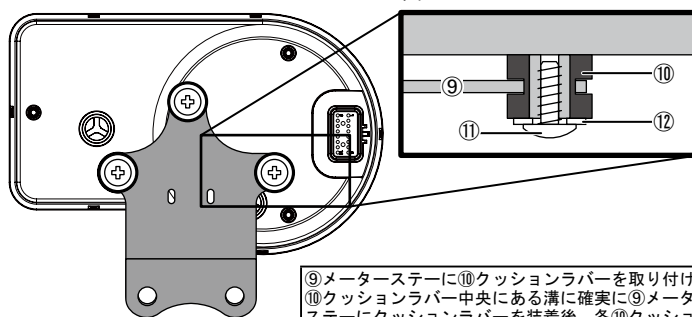


図 2

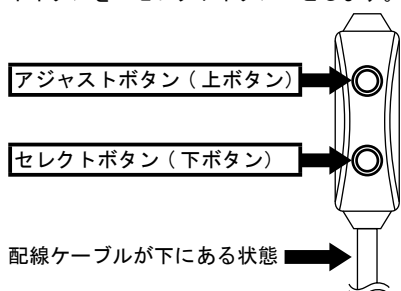


⑨メーターステーに⑩クッションラバーを取り付けます。  
 ⑩クッションラバー中央にある溝に確実に⑨メーターステーを取り付けてあるか確認します。(図 1)  
 ステーにクッションラバーを装着後、各⑩クッションラバーに①メーター本体のボスを差し込みます。  
 メーター本体のボスに⑫大径ワッシャ M4 を取り付け、⑪タッピングスクリューで固定します。  
 (図 2) をご覧頂き、部品の取り付け位置や順番をご確認下さい。

**注意** タッピングスクリューの締めすぎにご注意下さい。

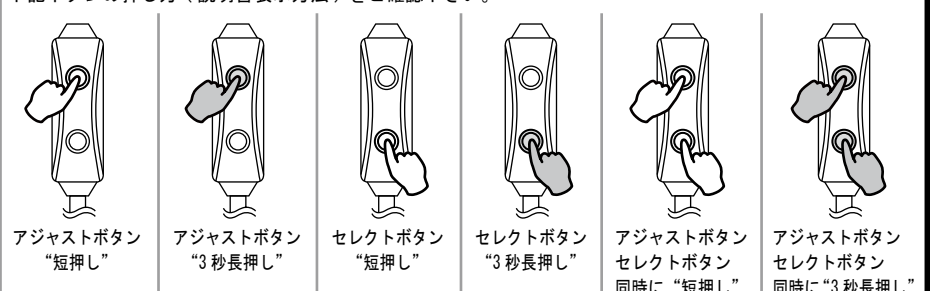
メーター外部スイッチ詳細

メーター外部スイッチは、下イラストのように配線ケーブルが下にある状態で取り付けて下さい。  
 下イラストの取り付け状態とし、  
 上ボタンを“アジャストボタン”、  
 下ボタンを“セレクトボタン”とします。

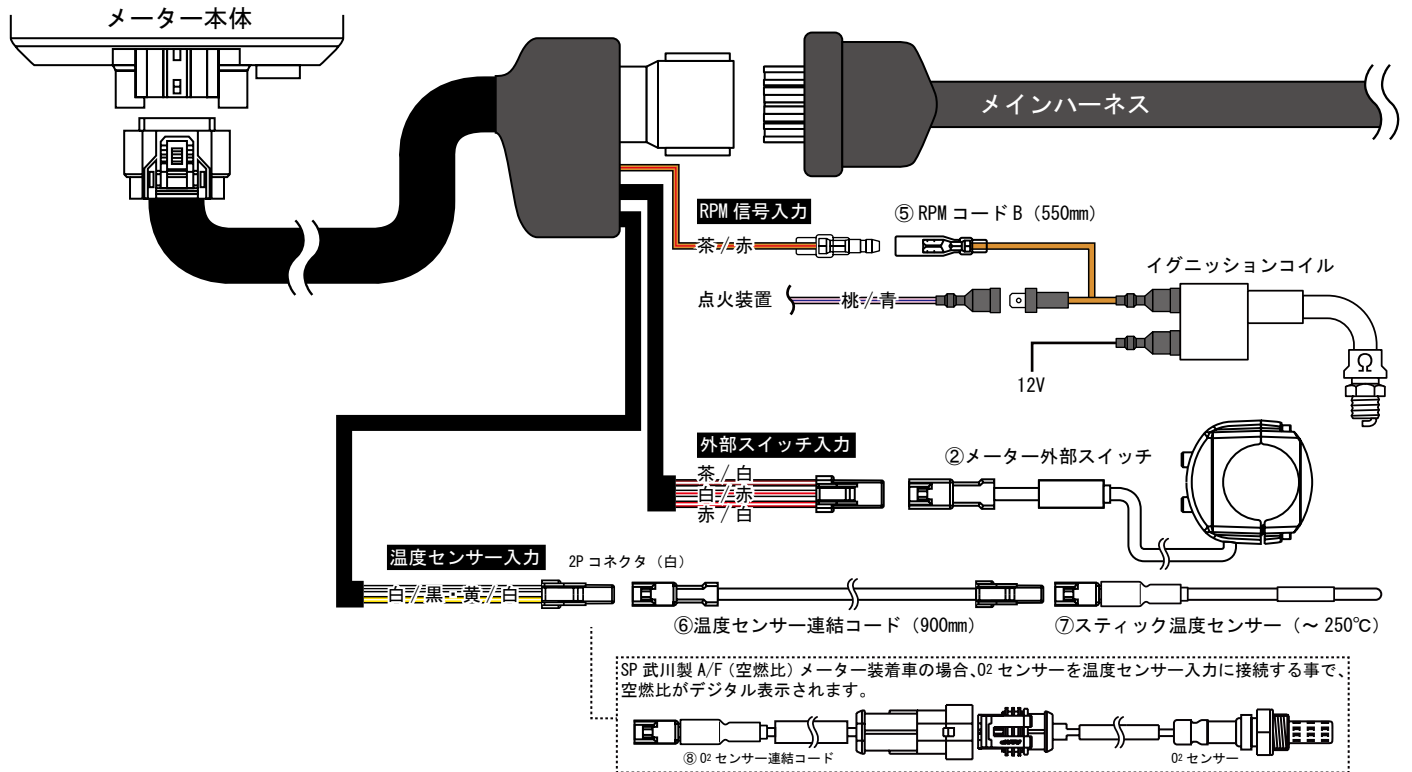


メーター外部スイッチの操作方法

メーター外部スイッチの操作は、アジャストボタン (上ボタン) “短押し” “3 秒長押し”、  
 セレクトボタン (下ボタン) “短押し” “3 秒長押し”、アジャストボタンとセレクトボタンを同時に “短押し”  
 “3 秒長押し” の各種押し方により、機能設定や表示切り替えを行います。  
 下記ボタンの押し方 (説明書表示方法) をご確認ください。



配線概要



⑤ RPM コード B は、イグニッションコイル本体に接触しない様にハーネスの取り回しを行って下さい。表示が不安定になる恐れがあります。

温度センサー入力について

温度センサー連結コード、温度センサーの接続

- 温度計の測定範囲は 0 ~ 250°C です。
- 油温計測を行うには、別途オプションパーツのアダプター類が必要です。
- 弊社カタログにてオプションパーツをご覧下さい。
- 温度センサーを適当な位置に固定し、外気温計としての使用も可能です。

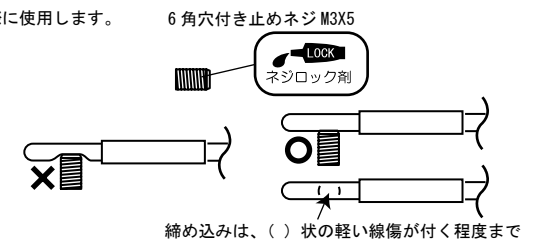
ステアリング作動による干渉や走行振動による擦れ、エンジン高温部への接触などで損傷、断線しないように配線テープやタイラップを使いフレームや車体ハーネスに配線を固定して下さい。

センサー未接続 (配線が断線) 時は数値が [ - - - . -°C ] となります。



別売オプションパーツのドレンボルトやアダプターに付属の止めネジは、スティック温度センサーを固定する際に使用します。脱落防止の為に止めネジにネジロック剤を少量付け、センサーに軽く線傷が付く程度で締め込みを止めて下さい。

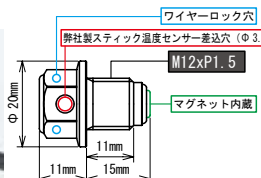
破損するとコードの断線又は短絡 (ショート) と同じ状態になります。  
断線時の表示: [ - - - . -°C ]  
短絡時の表示: [ 250.0°C ]



**注意** 止めネジの締めすぎでセンサー部が大きく変形すると、内部の電子部品が損傷してしまう可能性があります。

温度計オプションパーツ

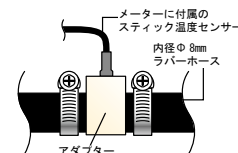
- マグネット付きドレンボルト (M12xP1.5) モンキー 125 適合



エンジンオイルに混ざった鉄粉をドレンボルトに設けたマグネットが強力な磁力で吸着します。これにより、オイル内にある鉄粉が減少し、エンジンオイル本来の安定した潤滑性能を発揮する事が可能となります。更に弊社製アルミドレンボルトには、脱落防止としてワイヤロックが行えるワイヤロック穴と弊社製スティック温度センサー差込穴を備えています。スティック温度センサーをドレンボルトに取り付けし、弊社製スーパーマルチ TFT メーターに接続する事でドレンボルト部での温度を計測する事が出来ます。ドレンボルト本体はアルミ材を精巧に削り出し、表面にカラーアルマイトを施しています。カラーはシルバー、ブラック、ブルー、レッドの 4 種類。弊社ロゴレーザーマーキング入り、マグネットには磁力が強力なネオジムマグネットを採用。■ マグネットは「カシメ」でしっかりと固定 ■ 純正ドレンボルトと交換してご使用頂けます。

- 油温計用アダプター

モンキー 125 弊社製オイルクーラーキット (ラバーホース) 装着車 適合



ラバーホース (内径 Φ 8mm) 採用のオイルクーラーキット装着車を対象とするスティック温度センサー差込穴付きアダプターです。オイル取り出し口とオイルクーラーをつなぐ、ラバーホースの間にこのアダプターを装着する事で、オイルライン (アダプター部) での温度を計測する事が出来ます。温度センサーはオイルと非接触の為、アダプター部での温度となりますが、オイル温度の目安としてご覧頂けます。当製品に付属のスティック温度センサーを接続する事で、温度をメーター内の液晶画面でご確認頂けます。

製品名	品番
ドレンボルト (マグネット付き) : M12 P1.5	シルバー 02-09-0022    ブルー 02-09-0024 ブラック 02-09-0023    レッド 02-09-0025
M12 シーリングワッシャー	00-00-0140
内径 Φ 8mm オイルクーラーホースアダプター	07-04-0521

**注意**  
走行距離を引き継ぐ場合は純正メーターを取り外す前に走行距離をメモなどに記録しておいて下さい。

メーター本体とメーターステアの固定方法につきましては、説明書 P2 でもご覧頂けます。

■純正スピードメーターの取外し作業  
ヘッドライトユニット下部のボルト 2 本を取り外します。



ヘッドライトユニットを下部から分離させ上部の爪を外します。



ヘッドライトユニットの接続を外します。



ヘッドライトケースを止めているヘッドライトステー部のボルト 2 本を取り外します。



ヘッドライトケース内のボルト 1 本を取り外します。



ヘッドライトケースを移動させ、純正メーターカバー取り付けボルト、カバー、カブラーを取り外します。

**注意**  
ヘッドライトケースを移動する際は、ハーネスに無理な力が掛からない様に注意して下さい。

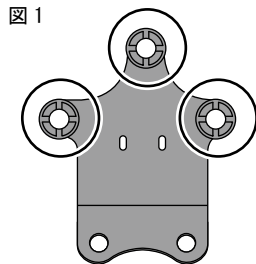


純正メーター取り付けボルト 2 本を取り外し、純正メーターを取り外します。

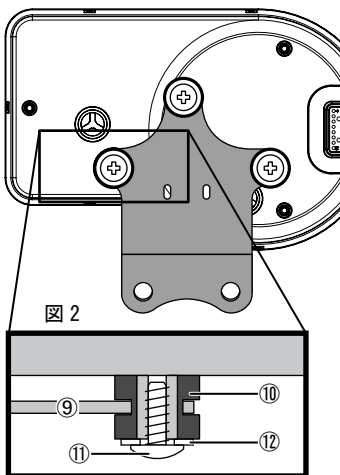


■メーター本体とメーターステアの固定方法

⑩クッションラバー中央にある溝に確実に⑨メーターステアが取り付けられているか確認します。(図 1)

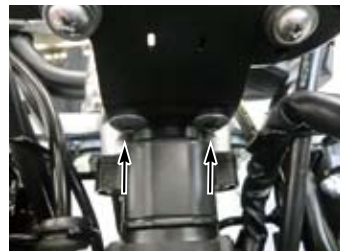


ステアにクッションラバーを装着後、各⑩クッションラバーに①メーター本体のボスを差し込みます。メーター本体のボスに⑫大径ワッシャー M4 を取り付け、⑪タッピングスクリューで固定します。(図 2) をご覧頂き、部品の取付け位置や順番をご確認下さい。



**注意**  
タッピングスクリューの締めすぎにご注意下さい。

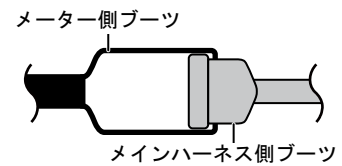
純正ボルト 2 本を用いてメーターステアを取り付けます。



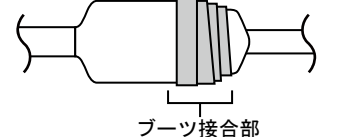
**注意**：必ず規定トルクを守る事。  
純正ボルト  
トルク：10N・m (1.0kgf・m)

■サブコードへの接続作業

⑤ RPM コード B、②外部スイッチ、⑦スティック温度センサーを説明書 P3 の配線概要を参考に接続作業を行って下さい。  
⑤ RPM コード B はイグニッションコイル本体に接触しない様にハーネスの取り回しを行って下さい。タコメーターの針が不安定になる恐れがあります。最後にメインハーネスとメーターハーネスのコネクターを差し込みます。写真のようにメインハーネスのブーツがメーターハーネス側のブーツに確実に入るように差し込みます。



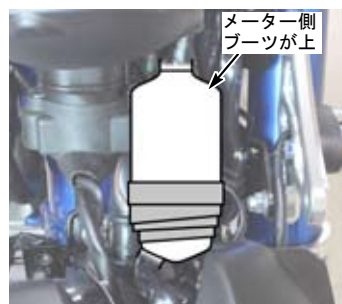
**注意**  
防水性を高める為、ブーツの接合部分を覆うように、市販の配線テープを巻き付けて下さい。



配線テープ巻きつけによる防水処理

※テーピング及びブーツカバーの方向を無視した場合、ブーツカバー内に水が入り、メーターが破損する恐れがあります。

メインハーネスとメーターハーネスの取り回しを行い、下記イメージ図を参考にメーター側ブーツが上になる様にして下さい。  
温度センサー、スイッチ、パルスコードも必ず下側に向かって配線の取り回しを行って下さい。

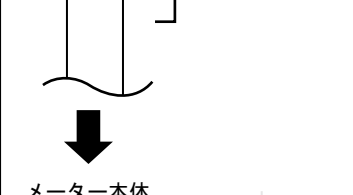
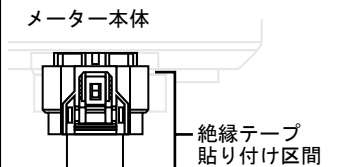


ヘッドライトケース、ヘッドライトユニットを逆手順で取り付けます。

**注意**  
ヘッドライトケースで、メーターハーネスを挟み込まない様に注意して下さい。断線や接触不良の原因になります。

■メーター本体への接続作業

下写真、イラストを参考に①メーター本体と④サブハーネスを接続し、絶縁テープを巻きます。



絶縁テープ巻きつけによる防水処理

**注意**  
絶縁テープでテーピングが行われていない場合コード内に水が入り、メーターの故障に繋がる恐れがあります。

ヘッドライトケース、ヘッドライトユニットを逆手順で取り付けます。

**注意**  
ヘッドライトケースで、メーターハーネスを挟み込まない様に注意して下さい。断線や接触不良の原因になります。

■外部スイッチの取り付け作業

メーターハーネスへ接続した外部スイッチをハンドルパイプにラバーstripsを巻き付け取り付けます。  
※外部スイッチは、防水仕様ですが、高圧洗浄機等で直接当てないで下さい。

## モンキー 125 専用機能設定項目

車両専用機能設定を行う場合、“スーパーマルチ TFT メーターに付属のメーター本体説明書”を併用して下さい。  
機能設定画面への移動変更方法や数値入力などの基本操作は、すべて“メーター本体説明書”に記載されています。  
下記車両専用機能設定は、入力する数値や設定のみ記載しています。

下記番号はメーター本体説明書 機能設定項目番号になります。

■メーター本体説明書 機能設定番号 ①～⑪ ⑬～⑮の機能設定につきましては、メーター本体説明書をご覧ください。(機能設定方法を記載)				
① “Date & Clock” (日付・時計設定)	② “Unit” (速度・温度設定)	③ “Backlight” (バックライト設定)	④ “Overspeed” (速度警告設定)	
⑤ “Shift Light” (回転警告設定)	⑥ “Temp Warning” (温度警告設定)	⑦ “Volt Warning” (電圧警告設定)	⑧ “Low Fuel Warning” (燃料警告設定)	
⑨ “Oil Change (Trip 0)” (オイル交換時期警告設定)	⑩ “ABS Warning” (ABS 警告設定)	⑪ “Warning Light” (警告灯設定)		
⑬ “A/F Ratio” (空燃比計設定)	⑭ “Power Teat” (パワーテスト設定)	⑮ “ODO” (走行距離設定)		

※モンキー 125 はモデルにより、入力値が異なります。モデルを確認し入力して下さい。

# 12

## モンキー 125 専用 ⑫ Speedometer (速度表示設定)

### ■速度信号長さとセンサーポイント設定

タイヤ周長を測定します。下記イラストの“タイヤ周長の測り方”を参考に計測します。測定後、下記計算式に数値を当てはめて計算を行います。これにより、速度信号長さの数値を求めます。そして、純正速度センサーの信号数を入力し、設定を完了します。

### ■純正速度センサーの設定方法

対象：モンキー 125 のミッションのギアの歯数を読み込み、速度表示を行っている車両

下記計算式に必要な数値を当てはめて計算を行い、メーターに入力する数値を求めます。

必要となる数値は“ドライブsprocket (丁数)” “ドリブンスprocket (丁数)” “タイヤ周長” になります。

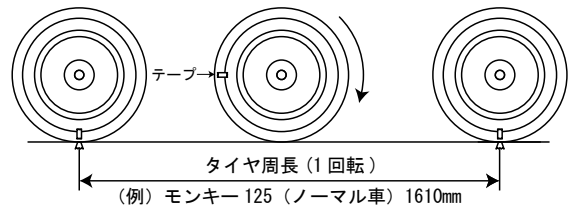
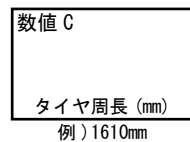
### ■ドライブsprocket (丁数) を“数値 A” ドリブンスprocket (丁数) を“数値 B” とします。

(例) モンキー 125 (ノーマル車) ドライブsprocket (数値 A) : 15T ドリブンスprocket (数値 B) : 34T

タイヤ周長の測り方 エアーバルブやテープにて目印決め、それを始点とし、タイヤを 1 周回転させた距離を測定します。

※設定後、タイヤサイズを変更した場合は必ず設定を変更して下さい。

### ■タイヤ周長を“数値 C” とします。

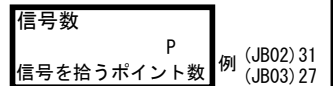


下記計算式から値を割り出す事が出来ます。太枠内の数値が“速度信号長さ (Tire Circumference)”の数値となり、メーターに入力する数値になります。

数値 A ドライブsprocket	÷	数値 B ドリブンスprocket	×	数値 C タイヤ周長 (mm)	=	速度信号長さの数値 (mm)
例 (JB02) 15T (JB03) 14T		例 (JB02) 34T (JB03) 37T		例 (JB02) 1610mm (JB03) 1610mm		例 (JB02) ÷ 710mm (JB03) ÷ 609mm

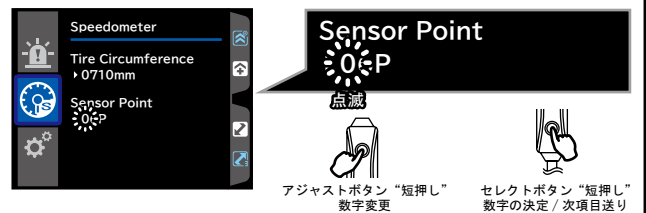
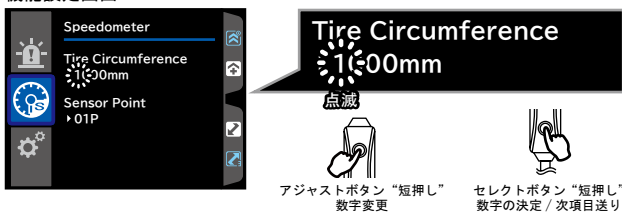
### ■純正速度センサーの信号数 (Sensor Point)

(例) モンキー 125 のミッションのギアの歯数を読み込み、速度表示を行っている車両が対象となります。この場合、純正速度センサーが読み込んでいる純正ミッションのギアのカウンター側歯数を入力します。太枠内の数値が“信号数”の数値となり、メーターに入力する数値になります。



メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3 秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前に SETUP 画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し” (下スクロール) を行い、“Speedometer”に合わせます。タイトルに“Speedometer”が表示されていることを確認し、セレクトボタン“3 秒長押し”で機能設定画面“Speedometer” (速度表示設定) に入ります。

### 機能設定画面



機能設定画面に入ると、項目 Tire Circumference に入り、1000 の位が点滅します。ここで計算で出した“速度信号長さ”の数値を入力します。点滅している数字の変更は、アジャストボタン“短押し”で行います。決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定 (セレクトボタン“短押し”) すると設定完了となり、次の位に移動します。最後に 1 の位を決定 (セレクトボタン“短押し”) すると設定完了となり、次項目 Sensor Point (信号数入力) に移動します。※入力はまだ確定していません。

モンキー 125 (JB02) (JB03)  
ノーマル車 (ノーマルタイヤ) 速度信号長さ : (JB02) 710mm (JB03) 609mm

ノーマルタイヤ以外を装着している場合は、装着されているタイヤ外周を測り、上記計算式から値を割り出して、数値入力を行って下さい。

モンキー 125 (JB02)  
SP 武川製スピードセンサーキットと 5 速クロスミッションキット装着車の場合

上記製品を装着されている場合、sprocket を変更していてもノーマルドライブ sprocket の丁数、ノーマルドリブンスprocket 丁数、ノーマルタイヤ周長で計算式に当てはめて値を割り出し、メーターに数値を入力して下さい。sprocket やクロスミッション装着時の速度表示の設定は SP 武川製スピードセンサー側で行います。

Sensor Point (信号数入力画面) に入ると、10 の位が点滅します。ここで、純正速度センサーが読み込む“信号数” (信号を拾う純正ミッションのギアの歯数) を入力します。点滅している 10 の位の数字変更は、アジャストボタン“短押し”で行います。数字の決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定すると次は 1 の位の数字へ切り替わり、点滅します。最後に 1 の位を決定 (セレクトボタン“短押し”) すると設定完了となり、設定画面に戻ります。※入力はまだ確定していません。ご注意ください。更に設定画面でアジャストボタン“3 秒長押し”を行い、メイン画面に戻って下さい。これで設定が確定されます。

車両がノーマルミッションの場合、純正速度センサーが読み込んでいる純正ミッションのギアの歯数を入力します。  
モンキー 125 (JB02) ノーマルミッション (4 速) 車 数値入力 : 31P  
モンキー 125 (JB03) ノーマルミッション (5 速) 車 数値入力 : 27P

### ※設定確定に関する注意点

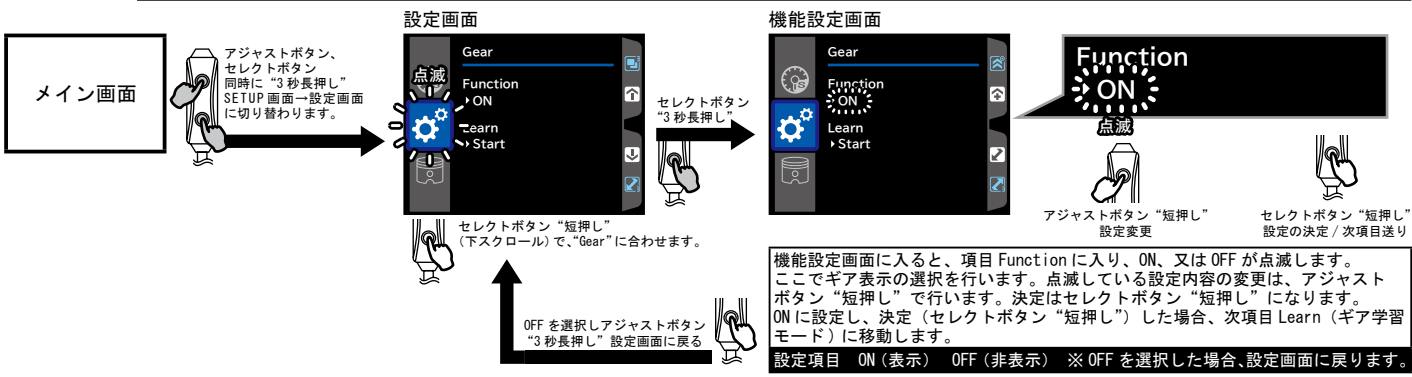
数値入力・機能選択後は必ず、設定画面でアジャストボタン“3 秒長押し”を行い、メイン画面に戻って下さい。この作業が“設定確定”となり、メーターに設定が記憶されます。この作業を行わず、キー OFF を行うと新規設定は記憶されず、設定前の状態になります。

# ⑬ Gear (ギア設定)

# 13

メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”（下スクロール）を行い、“Gear”に合わせます。タイトルに“Gear”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“Gear”（ギア設定）に入ります。

※ギアポジションの設定に関して  
ギアポジションの設定にはスピード信号とエンジン回転信号の両方がスーパーマルチTFTメーターに入力される必要があります。その為、“シャーンダイナモやフリーローラー”又は“実走行”によるギア表示の学習が必要になります。又、学習を行う際、必ず速度表示が設定されている状態で行う必要があります。弊社では、安全性の面から“シャーンダイナモやフリーローラー”によるギア表示の学習を推奨します。“実走行”で行う場合、市街地では信号機や交通量が多く危険の為、ギア表示の学習は行わないで下さい。“実走行”で行う場合は見通しの良い場所を選択し、周囲の状況を確認した上で、注意して行って下さい。



※ギア学習モードを設定する前に、必ずギアをニュートラルにして下さい。  
※ギアに入れるタイミングはメーター側から指示されます。ギア入力を指示される（ギア表示の学習後）まで指定回転数を維持して下さい。

**1** → **1** 点滅

1速で走り出す事でギアポジションのギア表示の学習開始します。  
※次のギア入力指示まで指定回転数維持  
画面上に“Fail!”という警告が表示されるとエラー検出を意味します。  
Gear-Learnを再設定して下さい。

**1** → **2** 点滅

“2”が点滅したら、2速に入れます。  
2速のギア表示の学習開始  
※次のギア入力指示まで指定回転数維持

**2** → **3** 点滅

“3”が点滅したら、3速に入れます。  
3速のギア表示の学習開始  
※次のギア入力指示まで指定回転数維持

**3** → **4** 点滅

“4”が点滅したら、4速に入れます。  
4速のギア表示の学習開始  
※次のギア入力指示まで指定回転数維持  
4速車ではここまでですが、そのまま指定回転数維持を行って走行して下さい。

**4** → **5** 点滅

“5”が点滅します。  
4速車はここで“アクセル OFF”  
※メーター本体が5速がない事を認識  
5速ミッションの場合は、“6”点滅後アクセル OFF します。

**Done** が画面に表示されます。  
ギア学習モードが完了し、設定画面に戻ります。

**Learn (ギア学習モード)**

Learn(ギア学習モード)に入ると、項目Learnに入り、Startが点滅します。ここでギア学習モードを行います。アジャストボタン“短押し”で学習開始に切り替わります。“Go”の文字とギアポジション“1”が表示され、点滅します。この状態が“実走行”によるギア表示の学習の待機状態になります。ここから1速に入れて走り出す事で、読み込みがスタートします。必ず下記注意事項をご確認下さい。

**実走行によるギア学習モード 注意点**

- ホイールが回転しない状態では設定出来ません。
- クラッチを切った状態で、エンジン回転を上げても設定出来ません。
- 各ギア共に 3000rpm以上の回転数を保って下さい。

ギアを入れて指定回転数を維持する事で、ギアが設定されます。設定されると次のギア入力指示が表示されますので、メーターからの指示があるまで次のギア入力を行わないで下さい。

- 半クラッチ状態では設定出来ません。(スタート時除く)
- 4速の場合、4速に入れた後、メーターから5速の指示(5点滅)があった時点でアクセルをOFFにして下さい。(メーターが5速がない事を認識します。)

※ギアポジション自動読み込み設定完了通知は下記“Done”の画面表示

- トップギアを入れる前に減速や指定回転数以下になった場合は最初からやり直して下さい。

Goの文字点滅(待機状態)から1速で走り出す事で、ギア学習モードがスタートします。次のギアに入れるタイミングはギア表示の学習後、メーター側からギア入力指示が表示されますので、そのタイミングでギア入力を行って下さい。最終ギアまで入力した後、次のギア入力指示が点滅した時点で、アクセルをOFFにして下さい。アクセルをOFFにする事で、メーターがこれ以上、ギア数がない事を認識し、画面に“Done”を表示します。これでギア学習モードが完了し、設定画面に戻ります。

例: 4速ミッション車  
Go(1速で走り出す) → 2(点滅) 2速に入れる → 3(点滅) 3速に入れる → 4(点滅) 4速に入れる → 5(点滅) ここでアクセルをOFFにし、ギア学習モード完了

下記のエラー検出画面が表示された場合、Gear-Learnを再設定して下さい。

**エラー検出画面表示**

**設定画面** → アジャストボタン“3秒長押し”

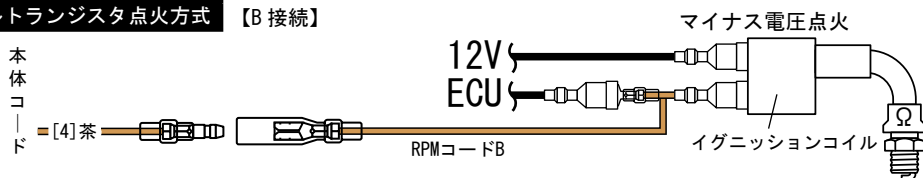
**メイン画面**

## モンキー 125 専用 ⑭ RPM (タコメーター入力設定)

# 14

モンキー 125 の場合、【B 接続】 “フルトランジスタ点火方式” になります。下記接続方法で付属の RPM コード B を接続します。

フルトランジスタ点火方式 【B 接続】



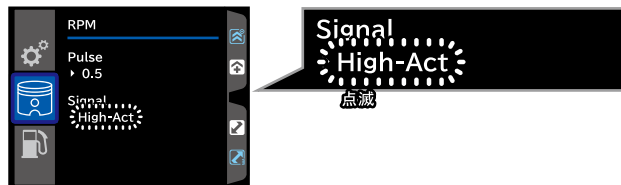
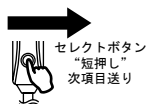
RPM コード B 接続後、下記 “RPM (タコメーター入力設定)” にある RPM 信号回数設定と RPM 信号種類設定を行います。

メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に “3 秒長押し” を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前に SETUP 画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン “短押し” (下スクロール) を行い、“RPM” に合わせます。タイトルに “RPM” が表示されていることを確認し、セレクトボタン “3 秒長押し” で機能設定画面 “RPM” (タコメーター入力設定) に入ります。

機能設定画面



下記 “RPM 信号入力” を参考に RPM コードの接続し、信号回数を確定した後、タコメーター入力設定にて信号回数を入力します。機能設定画面に入ると、項目 Pulse に入り、数字が点滅します。ここで RPM 信号回数を入力します。点滅している数字の変更は、アジャストボタン “短押し” で行います。決定はセレクトボタン “短押し” になります。決定 (セレクトボタン “短押し”) すると、次項目 Signal に移動します。  
モンキー 125 の RPM 信号回数 : P0.5



機能設定画面に入ると、項目 Signal に入り、“Hi-Act”、又は “Lo-Act” が点滅します。ここで RPM 信号種類の選択を行います。点滅している設定内容の変更は、アジャストボタン “短押し” で行います。決定はセレクトボタン “短押し” になります。決定 (セレクトボタン “短押し”) すると、設定画面に戻ります。※入力はまだ確定しておりません。ご注意ください。

モンキー 125 の RPM 信号種類 : Hi-Act

※設定確定に関する注意

数値入力・機能選択後は必ず、設定画面からアジャストボタン “3 秒長押し” でメイン画面に戻って下さい。この作業が “設定確定” となり、メーターに設定が記憶されます。

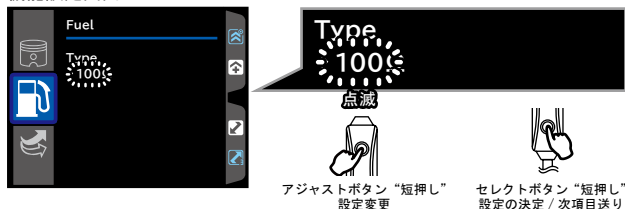
※上記作業を行わず、キー OFF を行うと新規設定は記憶されず、設定前の状態になります。

## モンキー 125 専用 ⑮ Fuel (燃料設定)

# 15

メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に “3 秒長押し” を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前に SETUP 画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン “短押し” (下スクロール) を行い、“Fuel” に合わせます。タイトルに “Fuel” が表示されていることを確認し、セレクトボタン “3 秒長押し” で機能設定画面 “Fuel” (燃料設定) に入ります。

機能設定画面



機能設定画面に入ると、項目 Type に入り、プリセットされた設定 (抵抗値など) が点滅します。ここで抵抗値、又は燃料設定を選択します。点滅している設定内容の変更は、アジャストボタン “短押し” で行います。決定はセレクトボタン “短押し” になります。抵抗値、又は OFF を設定し、決定 (セレクトボタン “短押し”) した場合、設定画面に戻ります。※入力はまだ確定しておりません。ご注意ください。

モンキー 125 はプリセットされた抵抗値にある “390 Ω” を選択して下さい。

⚠ ご確認下さい。

※燃料表示に問題がある場合、再度この抵抗値をご確認下さい。

※設定確定に関する注意

抵抗値、又は燃料設定選択後は必ず、設定画面からアジャストボタン “3 秒長押し” でメイン画面に戻って下さい。この作業が “設定確定” となり、メーターに設定が記憶されます。

※上記作業を行わず、キー OFF を行うと新規設定は記憶されず、設定前の状態になります。

メーターの作動不良等に関しては、まずメーター本体説明書のトラブルシューティングをご覧ください。